

飼性  
ら××  
ハメ×  
にの  
なり狛  
ました枝  
を

前篇

18  
FOR ADULT



注文したベッドが  
届くのはまだ先か……

それまでは  
布団生活だな……

——俺の名前は  
日向創

『希望ヶ峰学園』  
という名の学校に  
通う高校生だ

俺のいる学校は  
全国から各分野に  
秀でた天才達を  
スカウトして集めた

スタ  
……

そんな学校にしながら  
俺は、何事もない  
ごく平凡な生活を  
送っていた

言わば「この国の  
『希望の象徴』と  
謳われている訳だが



その理由については…  
あまり詮索しないで  
おこつと思つ







う……ん……？

今後の俺の人生を  
左右する”あいつ”  
との出会いだった——



貴方が……今度の  
新しいご主人様……？

どうも  
はじめましてー！

ご主人様の名前は  
…日向創、様で  
よかったですかな？

いきなり自室で  
全裸の男と二人…  
どうしようか…



ありがとうございます！初対面で  
こんなに優しくして  
もらったのは生まれて  
初めてだよー！

いいいから  
着ろー！

俺の事は日向でいい、  
それとだな、これ！



どうやらその様子だと  
ご主人様——日向くんは

ここまでに至る経緯を  
知らないみたいだね

という事だから  
まずは自己紹介から  
始めようか…

僕は登録名称・

「狛枝凪斗」、君名義で

買われた——奴隷さ

ど、奴隷……?!

まあ現代社会ではあまり  
馴染みがないかもしれないけど、  
言うなれば人身売買って奴隷さ

強いて言えば人権の無い  
ペットみたいなものかな?

僕たちは人身売買を  
中心に行う組合に管理され、  
販売に出されては

労働・愛玩・性処理……  
その他あらゆる用途で  
人々に使われてるんだ!

……どうしてお前は  
そんな平気そうに  
説明出来るんだよ?  
お前だって……

僕は奴隷になる前から  
そもそも価値のないゴミクズ  
みたいな存在だからね!

だからこそ逆に、自分を守る為に  
ご主人様の顔色を伺おうって  
つもりもないスタンスなのさ

センサーって  
これのことか?

そう、それは君が  
僕を管理するのに  
重要なものなんだ

ここにある小包に  
入っている黒いセンサーを  
取り出してもらえるかな

そこで  
だけとね…

そのセンサーは僕が付けているこの  
首輪に対応しているね…先端の  
ボタンを押すと首輪から気絶する  
ほどの毒が頸動脈に注入されるように  
なっていて、長押しで使えば致死量の  
毒も投下する事が出来る

僕がそのセンサーを壊した所で何の  
意味もないし、居所はこの首輪に  
搭載されているGPSで分かるから  
脱走することも出来ない…全ては  
組合に管理されているんだ

僕の「意思」が気に入らない  
というのなら、君はそれを  
使って僕を殺せばいい

そ、そんなこと  
出来る訳ないだろ!  
お前は怖くないのかよ…!

言ったでしょ?  
僕は価値のない  
ゴミクズなんだって

自分を曲げるくらいなら、  
僕みたいな存在は  
死んだ方がマシって事だよ

そんな…





僕はきつと君の  
「踏み台」になる為に  
生まれてきたんだ…

どちらかと言えばあつちの  
用途に使われていたから、  
好きなようにしてくれて  
いいんだよ…？

は…

なっ!?

や、やめろ!

俺にそつちの趣味は  
無いし、ましてや…

そ、そういう事は  
好きな人とするもの  
だろうが…!

……



狛枝が  
俺の家に来た  
理由はどうやら

俺の両親が、俺の  
一人暮らしが寂しく  
無いようにと差し向けた  
のが原因だったらしい

だからって奴隷を買う  
あたり俺の親はどうか  
してるとは思うが…

狛枝を放り出す訳にも  
いかないので、ひとまず  
家で一緒に過ごす  
事にした

ただいま、  
今日も疲れたな…

今日は冷蔵庫に  
あるもので適当に  
作ってみたんだ

おお…!

どれも  
美味しそうだな

おかえりなさい  
日向くん、丁度良かった!



なあ粕枝

こんな事聞くのは  
野暮なのかも  
しれないけど...

どうしてお前は  
奴隷になるなんて  
はめになったんだ？

それは...話しても  
面白くはないんだけどね

小さい頃に僕は両親を  
事故で無くして、その時  
多額の遺産が出たんだけど

それを騙されて奪われた挙句、  
金を使い果たした親戚から  
売りに出されたというのが  
きっかけだよ...  
別に珍しくもない話だけどさ

な、なんか嫌なことを  
思い出させてごめんな...

日向くんが  
気にすることはないよ!

それは違うぞ！

僕にはそんな心配される  
価値なんて無いんだから

自分に価値がないなんて  
簡単に言うなよ……！

きっかけこそ不純だけど、  
俺はお前が家に  
来てくれて感謝してるし

俺はお前の事  
大切にしたいって  
思ってるんだからな！

そ、そっか……  
……ありがとう、

そんな風に  
言ってもらえたのは  
……初めてだよ

奇妙な関係では  
あるけれど

俺と狛枝には  
少しずつ、確かな  
絆が芽生えていて

やばい、  
遅刻するから行くなっ！

ガ  
フ  
ヤ  
ッ

日向ケン！

——  
ああ！

今日も  
気をつけて  
いってらっしゃい

毎日が楽しいって  
思える日常を  
手に入れられたんだ

誰かと一緒にいるのって、  
こんなに幸せなんだな…

ふふ……

最近は本当に毎日が  
楽しいなあ……これも  
日向くんのおかげだよな！

あんまり幸せすぎて  
この後に来る不幸が  
怖いくらいだなあ……！

これってもしかして、  
日向クンの生徒手帳？

急いで出て  
いったから忘れ  
ちゃったのかな…

学校で必要なものだったら  
届けてあげないと…

……あれ？

すっ

アオニ……



日向創  
希望ヶ峰学園  
予備学科1年



え？

ただいま〜!

遅くなって  
ごめんな狛枝!

今日の夕飯は  
どうした〜

君には  
心底がっかりだよ

え...?

よくも今まで  
平気で嘘が  
つけたものだよね

予備学科君

!

何も知らない僕の前で  
偉ぶるのは楽しかった？

それとも、平凡で  
無価値な自分を忘れて  
いたかったのかな…？

それは…ッ、そもそも  
最初にお前が  
勘違いしてたんだろ！

ああ、それは先走った  
僕が悪かったよ

それにしても  
つくづく無駄なことだ  
時間を費やして  
しまったなあ…

何だって？

僕は「希望」を  
持ち得る人間以外に  
興味はないんだ

全く情けない話だよ、  
才能も何もない予備学科  
風情に媚びてたかと思うと…

今は自己嫌悪で  
気分が悪いんだよね…  
顔も見たくないから  
あっちいてくれないかな

ッ  
!!!!



ふざけるな!

じゃあ今までの俺が  
希望ヶ峰の「本科」の生徒だから  
してきた態度だっていうのかッ!

あーあ……そうやって  
自分だけ被害者面するの  
やめてくれないかな

こっちだって君に  
騙されてた身なんだよ?

君が何を言おうと、  
僕はもう君を  
信用したりしない

気に食わないって  
いうのなら――

いっそその手で  
僕を殺してみれば?

……ッ!

一応君は僕の主人なんだ、  
その気になればボタン一つで  
僕を殺せるんだよ？

僕は社会から存在を  
抹消されてる身だし、  
誰も君を咎められる人  
なんかいないんだ

……そんなのッ！

期待  
外れだなあ……

ま、本当は  
出来る訳ないって  
最初から分かってたよ

君みたいなの  
殺す度胸もない  
ただの「一般人」  
なんかにはさあ！

!!!

調子に乗るなよ……  
ただか奴隷のくせに

お前なんか  
見下される  
筋合はない!

大体お前はいいよな……  
羨ましいくらいだ

自分の立場や  
生き方を  
受け入れられたら  
どんなに楽か!

いくら努力をしても  
どこにも居場所を  
認めてもらえない  
人間の気持ちなんて  
分からないだろ?

そんなの  
当たり前だよ……

君はそもそも誰かに  
認めてもらえる  
器なんかじゃない

ピクミン

うるさい黙れッ!!!!

これだから頭の悪い  
予備学科は……

なあ粕枝……

俺の「才能」を  
知らなくたって、  
お前はあんなに優しく  
してくれてただろ？

だから……「俺」を  
見てくれ……「俺」を  
受け入れてくれよ……!

離してよッ!

い、  
いやだ……!

何をやる気……?

頼むから、なあ……







こういう時、飼い主は  
聞き分けの悪い犬に

ちゃんと躰を  
してやらなきゃ  
駄目だよなあ……？

う、あッ

ん？！

あ、あッ

ふ、ふはなす……

も、ナカに  
出すから……ッ

しっかり全部  
受け止めるよ……ッ！

あ  
あ  
あ  
あ  
あッ  
!!!

ああ、  
なんて

あッあ

やだッ、

あ、ミ

はっ、ミ

僕みたいなの  
卑しい人間にしか  
優位に立てない彼は

なんて愚かで  
哀れなんだろうか



…まさか  
こんな風に  
なるなんてね

実に…  
悲しい現実だよ



…どうして  
日向くんは  
僕を抱いたのかな？

単純に自分の  
所有物だと  
知らしめる為？

そういう事は  
好きな人と  
する事だろうが！

それとも



酷い顔だな…



いくら酷い事を言われた  
からって、俺のはただの  
八つ当たりじゃないか…

…いや、違う…  
これは――

狼枝に離れて  
欲しくなかった  
という独占欲だ

それに…気付いて  
しまった俺は  
もう――

…いや、そんな筈ない、  
そもそも彼はもう  
「希望の象徴」じゃないのに





—— どうして  
こんなにも……

苦しい思いを  
しているんだらう？

**SUPER DANGANRONPA 2**  
**Fan Book #3**  
**Hinata\*Komaeda**  
**By Gekidan-Retro-Za .**